

人は環境によって育つ



<掃除の時間>

<入学説明会>

「きれいになるね」と声をかけると、「はい、汚れがとれていきます」と答えてくれた。水道の流しの掃除を、懸命にやっている。「ごくろうさん」と声をかけると、床を雑巾で拭いているつらそうな姿勢のまま「はい」と答えてくれた。「こんにちは」と声をかけると、ほうきを動かす手を一瞬止めて、「こんにちは」と笑顔、さらに先をどんどん掃いていった。品中の掃除の時間、自主的に一生懸命に取り組んでいる様子が至るところで見られる。あたりまえであることをあたりまえにできることが貴い。そして、きれいな環境は心地いい。掃除のやり方は毎年4月に3年生が1年生に伝えている。掃除は品中の良き伝統の一つである。

二学期のある日、爽やかな朝、登校途中の生徒が話しかけてくれた。「ゴミ拾い手伝いましょうか」。こんなご時世なので、「素手で触らないように」と話しながらも、その明るい笑顔と気遣いに心があたたくなくなった。また、「こんなにありました」と校門に立っている私にビニル袋いっぱいのゴミを見せてくれた生徒も。うれしい限りである。

地下鉄の落書き消しの話思い出した。1994年にニューヨーク市長が取り組んだのは「地下鉄の落書き」の一掃だった。チリひとつ落ちていない道路とポイ捨てゴミだらけの道路。ポイ捨てする人が多くなるのはどちらか。答えは明らかである。ポイ捨てがポイ捨てを生む。「犯罪の街、ニューヨーク」を「家族連れにも安心な街、ニューヨーク」に変貌させる道筋をつけたといわれている。その後、数年間のうちに凶悪な犯罪の数が激減したそうである。

「人は環境によって育つ」、と言われる。きれいな桜を見たり、きれいな新緑を見たり、きれいな紅葉を見たり、きれいな花を見たり、そして、笑顔であいさつを交わしたりすると、心が元気になる。品中の朝は、そんな環境がいつもそろうている。きっと教室でも。

国道から校門までの品野坂は、用務員さんが掃除、草刈り、樹木の手入れなどいつも気遣っていただいている。140mの情緒溢れる素敵な空間が、いつも私たちを迎えてくれる。2月2日、3年ぶりに開催された新入生の入学説明会。「こんにちは!」、品野坂を上がってきた小学6年生の元気いっぱいのあいさつが印象的だった。子どもたちにとって、良い環境を整えていきたい。